# 己を見つめる

会員　永野　亮（65期）

夢想神伝流　中伝「颪（おろし）」

## 私の特技

私は，居合道という武道を10年程続けている。

現在はたまに道場に通う程度であるが，学生時代には東京都大会で優勝（敢闘賞）し，東日本学生居合道大会（団体）で優勝する等の戦績を残しており，4段でもあることから，私の隠れた特技である。

## 居合とは何ぞや?

さて，皆様は，居合とはどのようなものか御存知だろうか。おそらく，「座頭市」，「ルパン三世」の石川五ェ門，「るろうに剣心」のようないわゆる達人が，刀を抜いた瞬間に対象を斬っているという姿を想像されると思われるが，実際の居合について研鑽をお持ちの方は少ないのではないだろうか。

今回は，秘密に包まれた居合の魅力について，紙面を余すところなく使ってご説明したいのであるが，武道とは抽象的，感覚的な概念が多いものであり，その理を言葉で表すことは困難である。

よって，一から説明していると数十頁を要する大作を寄稿することになってしまい，小休止（コーヒーブレイク）どころではなくなるため，「殺気の出し方，感じ方」や「居合道における縮地」等は遺憾ながら又の機会とし，今回は経験談を交えて，他の武道と異なる特徴である「仮想敵」について，お話しさせていただく。

## 敵が見える

先日私は，数年振りに演武を行う機会に恵まれた。大学の居合道大会の審判としてお呼びがかかり，大会後に模範演武を披露することになったのである。

なお，居合の演武は実際に打ち合うことをせず，「仮想敵」に対して，業の要義に沿った対敵動作を行うこととなる。

朝から晩まで稽古をしている学生と比べて，スピードや体幹の安定感で優るわけでもなく，普段の不規則な生活も相まって，筋肉は脂肪に変わり，全盛期とは比べるべくもない。

しかし，たとえ数年振りであっても全く動揺はなかった。

正座になり，心を落ち着かせる。何も考えず，周りの音が気にならなくなり，周囲と自己が一体になったところで，演武を始める。

刀に手をかけ，1本目の業，「初発刀」。これまで数万回は稽古した業である。

すると目の前の空間に，今まさに私に襲い掛からんとする影が出現するのである。

･･･それが「仮想敵」である。

私が居合を始めた当初は，師範の先生によく「敵が見えていない」「漫然と刀を振っても意味がない」と御叱りを受けるたび，「そんなもの見えるわけない」と思っていたが，稽古を続けるうちに，「敵が見える」ということの意味が分かるようになってきた。

敵が見えるというのは，当然，オカルトや超常現象ではなく，また，他者から五官の作用で認識できるものでもない。

仮想敵とは，業の要義を深く理解して，自己の内面や身体の動静の細部に至るまで客観視して気を配り，心を落ち着かせて演武をする時はじめて，心の中から作り出される己自身のイメージだったのである。

「昔のように敵が見える」

あとは影に対して，業を抜くだけである。こうして，久しぶりの演武であったが，つつがなく終わりを迎えることができた。

## 終わりに

居合道とは，己を見つめる武道である。

弁護士業においても，自己の活動を細部に至るまで客観視することによって，他者（依頼者や相手方，裁判所等）からどのように見られているか常に意識し，独りよがりにならないように注意することで，より良い弁護活動に繋げていきたいところである。